

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

1. 特別の教育課程の内容
<p>(1) 特別の教育課程の概要</p> <ul style="list-style-type: none">・第3、4学年において年間35時間、第5、6学年において年間50時間の「英語科」を実施する。・第3学年～第6学年においては、新学習指導要領への移行措置に基づき、「総合的な学習の時間」15時間を削減する。 <p>(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性</p> <p>本市は、平成16年12月8日に構造改革特別区域研究開発学校設置事業の認定を受け、第3学年以上において「英語科」の授業を実施してきた。その結果本市においては、児童、教員、及び保護者の中に、「英語科」に実施について、積極的な土壌が形成されていると考える。</p> <p>本市の小・中学校には多くの外国籍児童生徒が在籍しており、学校教育の施策の1つとして、「グローバル社会に生きる人材の育成」を掲げている。多文化共生社会を構築していくためには、児童・生徒に確かなコミュニケーション能力を身に付けさせていくことが課題である。</p> <p>以上のことから小学校における「英語科」の取組を今後も継続・発展させていくことは、本市の学校教育や英語教育の特色、及び地域の特徴を生かした教育活動を展開することであると、将来、本市の発展を担う人材育成にとって極めて重要であると考えている。</p>
2. 自己評価
<p>ア～エすべて B 成果：一人一人が楽しそうに意欲的に授業に参加し、積極的に会話しようとしたり、学んだことをすぐに活用しようとしたりする姿がある。</p> <p>課題：ALT の話を聞いて他の国を知ることにはあるが、体験的な活動から様々な文化を理解するまでには至っていない。</p>
3. 学校関係者評価
<p>成果：よく聞いていて学ぶ意欲を感じる。身体を動かしながら楽しく学ぶ姿がある。</p> <p>課題：今後、担任だけで行う英語の進め方を確認する必要性はある。</p>
4. 実施の効果及び課題
<p>(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係</p> <p>全校児童37名の小規模校である本校では、『力を合わせてやりぬく子』を教育目標とし、互いを理解し認め励まし合い、切磋琢磨しながら目標達成に向けて取り組んでいる。その具現化するためには、コミュニケーション能力を身につけさせることが必須である。この「英語科」の中で表現力や互いを認め合い自ら発信していく力が培われつつあるが、高学年等で負担とならないよう考慮していく必要がある。</p> <p>(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係</p> <p>本校の教育目標『力を合わせてやりぬく子』の具現目標として、「仲間とともに主体的に学習し、学ぶ楽しさを味わわせる」ことを目指している。学校教育の施策の1つ「グローバル社会に生きる人材の育成」をしていくためには、自ら考え、その考えを対話の中で深め、学習していく力の育成が大切である。この「英語科」を取り入れることで、主体的に楽しみながら学ぶ楽しさが培われつつある。</p>
5. 課題の改善のための取組の方向性
<p>年間指導計画に基づいて進める中で、習得が困難である内容についての補充等については、モジュールの時間を活用し無理なく学習が進められるよう工夫している。</p>